

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
5

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COM munity) の心の交流 (COM munication) をめざします



一年の計は・・・

中北教育事務所
副所長 芦澤 秀幸

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新たな年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃より中北教育事務所地域教育関連事業に御理解と御協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、年頭にあたりこの1年をどのように過ごしてしていきたいかということに思いを巡らせた方も多いと思いますが、改めて「一年の計は元旦にあり」という故事成語について考えてみたいと思います。これには、「一日(いちじつ)の計は朝(あした)にあり」という言葉が付随し、「一日の計画は朝に立てることが肝心、そして1年の計画は元旦に立てることが肝心」ということになります。

この由来についてはふたつの有力な説があり、そのひとつの説に関連して次のような逸話があります。それは、毛利元就が家臣に「なぜ元旦を祝うか」と問われ、「世の愚か者どもは、恵方を拝んで、屠蘇を飲み、長寿・子孫繁栄を祝って浮かれているが、元旦はそんな暢気(のんき)なものではなく、年の初めに一年のことをじっくり考える。それが本当の祝いというものである。」と答えたというものです。私などはまさに世の愚か者の代表格だと今更ながら反省をしているところですが、さらに中国の書物では「一生の計は勤にあり。一家の計は身にあり。」と続き、四計というそうです。「勤」は勤務の勤で、「一生の計画はきちんと仕事することで決まる」ということ、「身」は身体のもので、「一家の将来は主人の身の振り方・生き方・健康で決まる」ということだそうです。

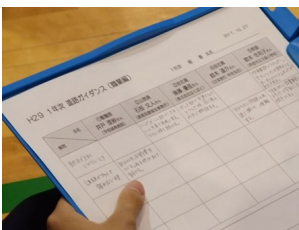
今、グローバル化は私たちの社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあります。こうした社会的変化の影響が社会のあらゆる領域に及び、将来の変化を予想するのが困難な時代に、子どもたちは自らの人生を切り拓いていかなければなりません。中北教育事務所では地域教育推進の基本テーマを「子どもを支える」とし、学校・家庭・地域が連携して子どもを支える仕組みを整えたり、子どもの置かれている環境を改善するための意識改革につながったりするような研修等を通して地域の教育力の向上の支援をしていきたいと考えています。地教委の皆様や教育現場で頑張っている先生方、外から学校を支え様々な活動の中で地域の教育力を高めている方々とともに、今日一日、今年一年、そして子どもたちの将来を見据えながら仕事を進め、「身近で頼りになる教育事務所」をめざしていきたいと思っておりますので、尚一層の御理解と、御支援をよろしくお願いいたします。

結びになりますが、皆様にとって希望に満ちた素晴らしい一年となりますようにお祈り申し上げます。



生徒のキャリアビジョンを育てる 甲府西高校 進路ガイダンス

10月27日(金)、甲府西高校で1年生を対象とした進路ガイダンスが行われました。キャリア教育の一環として、生徒のキャリアビジョンを育てることをねらいとするものです。県内で働いている20代の方5名をパネリストに迎え、教頭先生がコーディネーターとなつて、高校の頃の生活の様子や進路選択の経緯、現在の仕事のことなどを語ってもらいました。パネリストは看護師、県職員、食品会社の研究職、旅行会社、小学校教諭と職種は多様で、全員同校の卒業生です。



先輩たちの話に共通していたのは、最初から今の職業を考えていたわけではなく、毎日を生懸命過ごす中で少しずつ変化しながら選び抜いてきた結果だということでした。職業選択は人生の大きな岐路であり、人生の先輩からの言葉は、将来を考える上で大いに参考になると思います。生徒たちは、メモを取りながら真剣に聞き入っていました。



地域のお年寄りとの交流 高根北小学校 ふれあい集会

11月2日(木)に、高根北小学校で「ふれあい集会」が開催されました。地域のお年寄りとのふれあいを通して人を思いやることの大切さを学ぶとともに、多くの地域の方々に守られ、支えられていることを知り、感謝の心と郷土愛を学ぶ機会にしています。

この日は、60名のお年寄りをお招きし、全校39名の児童の合唱の後、8つのグループに分かれ、一緒に風船バレーやクイズをしました。また、お手玉、あやとりでは、おばあちゃんから教わりながら子どもたちが楽しんでいる姿が印象に残りました。昔あそびの合間の休憩では、子どもたちがお年寄りの肩もみをして喜んでいただきました。その後、学校菜園で児童が育てたサツマイモのふかし芋を一緒に食べ、最後に「北っ子元気太鼓」の演奏を行いました。児童とお年寄りの笑顔で包まれた「ふれあい集会」になりました。高根北小学校は、平成30年度末で統合します。来年の「ふれあい集会」が最後になり、参加者の方も寂しい胸の内を話していました。また、参加者の中には、この学校の出身者が何人もいるそうです。地域が育て、地域に



支えられている高根北小学校でした。



「士魂商才」の実践 甲府商業高校 甲商デパート

11月4日(土)、第61回甲商デパートが甲府商業高校で開かれました。「甲商デパート」とは、各クラスで店舗を設け、仕入れ、販売、会計、商品開発、店舗設計等を学ぶ経営実習です。毎年11月第1土曜日に行われていて、良い品を格安で手に入れられることから、来場者が多数あります。今年も開始30分前に駐車場が満車になり、開店を待つ人たちの長い行列は100m以上にも及びました。

開会行事のテープカットで「甲商デパート」が始まります。人気商品は昼前に完売してしまうこともあるそうで、事前にお目当ての品をチェックしてくる人達は、小走りにその販売ブースへ向かっていました。販売する商品は生徒達が一生懸命検討し、確かなところから仕入れたものですが、それがお客さんにどう評価されるかは、販売状況ではつきりわかります。少しでもお客さんを増やそうと、高校生の元気な呼び声があちこちから聞こえました。また、北杜高校から農産物を仕入れたり、甲府市立甲府商科専門学校が店舗を出したりと他校との連携も行われていて、「甲商デパート」が多くの人をつなぐきっかけになっていると感じました。



地域との共催イベント 千代田小学校 チヨダオータムフェスタ

11月5日(日)、千代田小学校で「チヨダオータムフェスタ」が開催されました。甲府市北部にある千代田小学校は、豊かな自然環境の中、小規模校ならではの特色ある教育活動を行っており、地域とも密接な連携の中、児童を育てています。千代田小学校と千代田地区文化協会が主催したこのイベントは、児童の日ごろの学習成果を保護者や地域に発表するだけでなく、地域の文化活動の発表の場でもあります。会場の体育館には、児童の作品だけでなく保護者や先生、地域の方々の作品も展示され、みんなで作品を鑑賞していました。



午前の部では、児童の「1分間スピーチ」がありました。これは、昭和61年から32年間続いている教育活動の1つで、自



分の考えをしっかりと持ち、相手に伝えることができるよう自己表現力を高めるとともに、相手の話をしっかりと聞く態度を養うことを目的としています。「学習・活動発表会」では、総合的な学習の時間等で調べた成果が発表され、5年生の「千代田にすむ生き物とその環境」は、地元の千代田湖や帯那(オビナ)川に生息している生き物の紹介や生態系、自然保護など学習の他、自分たちが住む地域を大切にしたいという思いが伝わる発表でした。



「小笠原流礼法」体験講習 たちばな保育園

11月7日(火)に、南アルプス市のたちばな保育園で「小笠原流礼法」の体験講習が開催されました。「小笠原流礼法」は、我が国固有の伝統と格式を重んじ、品格ある人間形成の作法を広く正しく普及することに努めています。

南アルプス市内のすべての小・中学校では、「小笠原流礼法」の師範を招いて体験講習を毎年実施し、基本動作(姿勢、お辞儀、歩き方、立つ・座る)を中心に指導して頂いています。さらに、就学前の子どもたちにも経験させたいとして、今年度は、8つの保育所(園)・幼稚園で2回ずつ計16回の講習を実施することにしました。



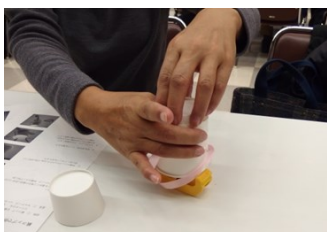
たちばな保育園では、17名の園児が深澤菱律総師範、網倉師範、亀井師範から基本動作を指導していただきました。立つ座る姿勢やきれいな歩き方、履き物のそろえ方、あいさつの仕方を教えていただき、良い姿勢や元気なあいさつができるようになりました。「良い姿勢は自然と笑顔になる」「うちへ帰ったらお母さんに教えてあげる」など園児たちは感想を言っていました。最後にみんなで「どんぐりころころ」を歌い、体験講習を終わりました。



作って遊べる簡単工作 放課後子ども総合プラン指導者研修会

県では、子どもが安心して活動できる場の確保を図る「放課後子ども総合プラン」のもと、放課後子ども教室や放課後児童クラブの指導者等のための研修会を行っています。11月16日(木)、第4回指導者研修会が県立青少年センターで開催されました。講師には、県立科学館の杉原孝彰課長を招き、「作って遊べる簡単工作」を学びました。放課後児童クラブや子ども教室の担当者、市町の教育行政関係者など約70名が参加しました。

前半に作ったのは、「紙コップで作るロボットアーム」です。紙コップを2つ使い、外側になる方を一部切って内側のコップにかぶせ、ビニール紐で固定する作業が難しかったようで、製作マニュアルをしげしげ眺めたり、グループ同士で見せ合ったりしながら作っていました。できあがったものを、消しゴムなど紙コップの中に収まる物にかぶせて外側の紙コップを回すと、あら不思議、ビニール紐がねじれて中の物をしっかりと絡め取りました。これは実際にロボット



に用いられている技術で、物を挟むよりも確実に掴めるそうです。作る前に講師の先生が、「できあがって動かすと、意外な動きをするのでちょっと感動しますよ」とおっしゃっていたとおり、あちこちから歓声があがっていました。後半は、ビニール袋とストローを使った「ふわふわビニール飛行機」を作りましたが、こちらも好評でした。この日の研修内容が子供たちに還元され、楽しいひとときが過ごせることを期待します。

父親の子育て参加支援事業 ～前田タクヤ 大嶽香子 トーク&ライブ～

11月25日(土)、「前田タクヤ 大嶽香子 トーク&ライブ」が八ヶ岳やまびこホールで行われました。これは県社会教育課の「父親の子育て参加支援事業」の一環で、峡北地区保育園保護者連合会が毎年イベントを実施しています。当日は峡北地域の親子300名ほどが参加しました。

前田さん大嶽さんご夫妻には、2歳と5歳のお子さんがいらっやいます。子育てに関して心がけていることや家事分担の工夫など、具体的な話がいろいろ語られました。また、家族が多いこと(三世代同居)や近所の方が暖かく見守ってくれること(御坂町在住で地域のつながりが強い)によって、子育てがかなり助かっているとおっしゃっていました。前田さんがパーカッション、大嶽さんがピアノを担当し、演奏が始まるとそれまではしゃいでいた子供たちも一斉にステージに注目、ライブの迫りに惹きつけられていました。また、アニメの主題曲やCMソング、童謡などのイントロ当てクイズや、柄付き太鼓を子供たちに担当してもらって前田さん大嶽さんとの合同演奏など、会場とステージが一体になる楽しいひとときでした。



正月飾りを作ろう 貢川小学校 三世代ふれあい教室

12月9日(土)に、貢川小学校で「三世代ふれあい教室」が開催されました。「三世代ふれあい教室」は、平成12年から貢川地区社会福祉協議会が貢川小学校および貢川教育推進会議、連合親寿会、青少年育成推進協議会等と連携し開催しています。指導者は、社会福祉協議会(社会福祉委員)および連合親寿会、地区有志が中心となり、地区福祉ネットワーク連絡会等や地域の協力を得て、広く人材を確保しながら年間16回の教室を開催しています。

今回は「第12回 正月飾り教室」で、児童と保護者ら約80名が参加しました。社教の福祉推進委員が指導者となり、児童と保護者が一緒に楽しみながらの製作になりました。まず、児童らはわらを束ね、織り込みながら亀を作ります。次に、わらを編み上げおかめの面やエビと一緒に飾り付けると完成です。最初はわらの編み込みに四苦八苦しましたが、指導員の助言を受け、親子で協力しながら楽しく作品を仕上げました。仕上がった正月飾りを手にした児童は正月を迎えるのが楽しみと感想を言っていました。

最後に全員でオリジナルの作品を前に記念写真を撮って、終了しました。児童も保護者も指導員も笑顔溢れる教室になりました。貢川小学校では、今年度創立140周年を迎えますが、地域に支えられ、地域と共にある学校として今後も地域と保護者・学校と連携しながら子どもたちの笑顔を育てていこう。



[お知らせ]

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

期日：平成30年1月30日(火) 14:00～16:30

会場：北巨摩合同庁舎 101会議室

講演：「中高生に大人を。大人に中高生を。」

NPO法人 河原部社 松本恵子氏 西田遙氏

平成29年度 『中北.com』 No.5

編集・発行 中北教育事務所 (柴 矢崎)

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

カラー版は中北教育事務所のHPでご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>